



矢野 邦夫 先生

浜松市感染症対策調整監
浜松医療センター感染症管理特別顧問

'81年 名古屋大学医学部卒業。名古屋第二赤十字病院、名古屋大学病院を経て、'89年 フレッドハッチンソン癌研究所、'93年 県西部浜松医療センター（2011年4月より「浜松医療センター」に病院名変更）。'96年 ワシントン州立大学感染症科エイズ臨床、エイズトレーニングセンター臨床研修修了。'97年 感染症内科長／衛生管理室長、'08年 副院長、'20年 院長補佐、'21年4月より現職。

ホームページでも、公開しています。

メディコン CDCWatch

検索



人獣共通感染症 *Brucella canis*

犬ブルセラ症は、犬ブルセラ菌（*Brucella canis*：ブルセラ キヤニス）が原因で起こる疾患である。メスでは流産と不妊を引き起こし、オスでは精巣炎や前立腺炎などがみられ、受胎率が低下したり、不妊となる。そのため、イヌ流産菌と呼ばれることもある。この病原体が犬舎内に持ち込まれると、無症状のまま蔓延して、繁殖障害をひき起こすため、ブリーダーなど繁殖場では大きなダメージを引き起こすことがある。

B. canis [註釈1] は人獣共通感染症の原因菌でもあり、感染した犬に濃厚接触することによって、人間が感染することがある。実際、日本においても、ペットショップで繁殖用として飼われていた犬から*B. canis*に感染した事例が報告されている（1）。米国サウスカロライナ州で複数の人々が*B. canis*に感染した犬に濃厚接触した事例が発生し、そのときの対応をCDCが週報（MMWR）にて報告しているので紹介する（2）。

Brucella canis

- *B. canis*は、飼い犬や野生の犬にブルセラ症を引き起こす人獣共通感染症の細菌性病原体であり、世界中に分布する新たな人獣共通感染症の脅威であると考えられている。
- 症状が非特異的であること、病原体の検出が困難であること、診断検査の精度と信頼性が大きく異なることなどから、犬と人間の*B. canis*感染は報告が少ない可能性がある。
- 人間や動物は、汚染された犬の体液や流産物との接触によって感染することがある。犬の症状は一般的に不妊や流産であるが、感染しても無症状の場合もある。
- 人間の徴候や症状は非特異的で、発熱、関節痛、疲労などであるが、心内膜炎、脾腫、神経症状などで、衰弱する可能性がある。
- *B. canis*の血清学的検査は人間の診断には承認されておらず、症例の特定は困難である。

事 例

- 2023年9月27日、サウスカロライナ州保健環境管理局は地元の獣医から、妊娠中の野良犬が子犬を流産した後に間接蛍光抗体（IFA: indirect fluorescent antibody）検査で*B. canis*の予備診断を受け、複数の人がその野良犬に曝露したとの通知を受けた。
- 疫学者と公衆衛生獣医師は、犬の診断を確認し、人間と動物への接触を特定し、人間の治療決定を導くために調査を行った。

調査と結果

- 8月14日、野良犬が4人家族（2人の子どもと1匹の犬を含む）の敷地に迷い込んだ。家族は2週間犬を預かり、8月28日に犬は5人家族（乳児1人と幼児1人、犬2匹、フェレット2匹を含む）に引き取られた。
- 9月18日、飼い主が膣分泌物に気付いたため、犬は獣医に連れて行かれた。そこで、飼い主は犬が妊娠していることを知らされた。
- 9月23日に7匹の子犬を流産し、その時点で獣医は*B. canis*のIFA検査を実施した。犬は翌日退院し、結果を待つ間自宅で隔離された。9月27日、検査の結果は陽性と報告された。
- 地元の疫学者は、動物と人間の曝露リスクを評価するために、里親（4人家族）や養子縁組家族（5人家族）および獣医クリニックのメンバーにインタビューを行った。
- 里親家族（および、犬1匹）、養子縁組家族（および、犬2匹とフェレット2匹）、獣医クリニックのスタッフ8人を含む合計17人と5匹の動物が犬に曝露した。
- 10月2日、サウスカロライナ州公衆衛生研究所は、膣分泌物の培養とポリメラーゼ連鎖反応検査により、野良犬の*B. canis*感染を確認した。予後不良および人獣共通感染症のリスクのため、犬は安楽死させられた。
- 感染犬に症状がみられるときに接触した養子縁組家族の飼い犬2匹は、IFA検査でスクリーニングされ、両方とも陰性の結果となった。
- 養子縁組家族は、飼い犬に推奨されていた8週間の追跡検査を辞退した。養子縁組家族の家族3人は、個人用防護具を着用せずに流産物と子犬を直接取り扱っていた。これらの高リスク曝露のため曝露後予防（ドキシサイクリンとリファンピシンの3週間投与）[既存のブルセラ症プロトコルから推定したレジメン]を受け、24週間症状がないか監視された。
- その他の曝露した人々と動物（里親家族とその犬を含む）は、個人防護具を着用して検体を採取したり、犬に餌を与えたり、撫でたり、屋外で散歩させたり、フェレットには家庭内で日常的に接触するなど、リスクの低い曝露を受けた。彼らは症状を監視するよう指示された。24週の時点で、曝露した人々から自分自身やペットに症状が出たという報告はない。

予備的な結論と対応

- この調査では、地元の獣医とペットの飼い主、疫学者、公衆衛生獣医、医師、研究員の協力を得て、野良犬の*B. canis*感染の診断と、人間とペットの曝露が確認された。
- 公衆衛生専門家の多分野にわたるチームが協力して、リスクの評価、動物検査の指示、治療法の推奨を行った。人間での診断には血清学的検査は利用できないため、曝露した人の症状のモニタリングと、曝露リスクの高い人への曝露後予防が推奨された。
- 獣医師は、流産または不妊症の犬では*B. canis*の存在を考慮しなければならない。犬における*B. canis*の臨床的疑いを確認するために検査を行うべきである。犬の分子学的検査または迅速凝集反応検査は、犬の間での*B. canis*の拡散を減らし、曝露した人の治療の指針となる可能性がある。
- 野良犬または繁殖犬舎で飼育されている犬は、これらの動物集団でブルセラ症の有病率が高いため、常に*B. canis*を疑う必要がある。
- 犬または人間における*B. canis*感染を予防するワクチンはないため、分娩中の犬または流産中の犬を診察する獣医スタッフは適切な個人防護具を着用することが重要である。
- *B. canis*感染のリスクを軽減するには、ペットの飼い主と獣医スタッフにリスクを伝えることが不可欠である。また、獣医師は自分の州または地域のブルセラ症の疾病報告要件に精通している必要がある。

[註釈1] ブルセラ症は、感染症法では4類感染症に指定されている。診断した医師は、届け出基準に基づいて直ちに届出をしなければならない。

[文献]

1. 国立感染症研究所. *Brucella canis* 感染症発生時の行政対応について一名古屋市
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/typhi-m/iasr-reference/2120-related-articles/related-articles-389-2322-dj3894.html>
2. Moore TS, et al. Multidisciplinary Approach to Investigating *Brucella canis* Exposures — South Carolina, September 2023
<https://www.cdc.gov/mmwr/volumes/73/wr/pdfs/mm7325a3-H.pdf>

株式会社メディコン
カスタマーサービス www.bdj.co.jp/s/cs/

bd.com/jp/

BD, the BD Logo and all other trademarks are trademarks of Becton, Dickinson and Company or its affiliates.
© 2024 BD. All rights reserved.

